

健全な永久歯列の獲得を目指して - 私の考える永久歯の萌出障害と埋伏への対応 -

いちのせ小児歯科（広島市） 一瀬 智生



略 歴

1989年 広島大学歯学部卒業
1989年 広島大学歯学部小児歯科学講座入局
1993年 因島市医師会病院勤務
1998年 広島市にて開業

小児は成長、発育過程にあるため全身的な発達を考慮したうえで、口腔領域の管理をしなければなりません。永久歯列完成までの発育成長の方向に狂いが生じたときに、可及的早期に正しい方向に位置づけることが咬合誘導の基本となります。

小児の齲蝕が減少したことにより、かつては多発した齲蝕によってマスキングされていた発育段階での口腔内の異常に対して、最近では気付くことが容易になってきたと思われます。また、年々新しい知見も得られるようになりました。したがって、外傷歯、腫瘍、過誤腫、過剰歯、異所萌出などの存在を見過ごさないように留意し、適切な管理をすることが必須となってきました。つまり、私たちは健全な永久歯列の獲得において、小児歯科専門医としてインターディシプリナリー・アプローチの先導役を担う責任が要求されてきたと言えます。

今回、健全な永久歯列の獲得を目指すに当たり、適切な時期での対応が大きな影響を及ぼす障害因子のうち、特に永久歯の萌出障害と埋伏について、私なりの考えをお話しします。これによって、一人でも多くの永久歯の萌出障害と埋伏を有する小児が見過ごされることなく、治療の機会が提供されるようになれば幸いです。